

本誌平成27年8月号、11月号に沖繩に勤務して



名古屋北労働基準監督署長 鈴木 章之

31

いた当時の拙い話を掲載  
いただいた。名古屋北労働  
基準監督署に勤務して  
いながら沖繩のことばかり。  
「名北ではなく、沖繩の空の下」ではないか、

とお叱りを頂戴するかもしれないが、失礼して懲りずにしたためることにする。

今回は八重山署勤務当時のことである。

署は石垣島（石垣市）に所在し、石垣島をはじめ、沖繩の原風景を残す竹富島、イリオモテヤマネコが息し日本のガラパゴスとも称される西表島や日本最西端の与那国島等、大小の島々を管轄している。沖繩本島よりも台湾が近く、我が国屈指の景勝地であり超人気観光スポットとして、エメラルドグリーンの美しい海、人情味溢れた島人と  
の触れ合いなどを求め、国内外を問わず観光客で溢れている。  
妻と4歳になる子とともに民間アパートに移り住んだ。周辺は沖繩本島

南部の糸満付近から移り住んだ海人（ウミンチュウ漁師）を祖先とする住民が多いと聞いていた。

生活を始め、まず、困ったのは日常会話である。何を言っているのかさっぱり分からない。こちらの顔を見て直ぐにヤマトンチュウ（内地の人）と察していただき、ヤマトグ



チ（大和言葉）で喋ってくれたが、井戸端会議ともなると全く分からない。もし悪口を言われていたとしてもヘラヘラしているしかない。

赴任間もなく、妻の口撃が始まった。「どうして何を喋っているのか分からないうちに連れてきたのよ。単身赴任すれば

良かったじゃない！」

そこら中で「ケツケツケツ」という鳴き声。深夜、妻が「トカゲが家の中にいる！」と絶叫した。灯りを点けると、なるほど壁にトカゲらしきものが這いつくばっている。こりや大変だ、というので、子供が寝ているのもお構いなしに殺虫剤を噴霧したり、ほろほろでバタバタ追い回したりして、何とか退去  
いただいた。

翌日、署で話したところ、怪訝な顔をされ、「それはヤモリ。『家を守る』ヤモリ。何処にでも居るし、ナンクルナイサー」と。妻に

この話をしたところ、「嫌なもの嫌なの!!」と一蹴された。幼少期はトカゲの尻尾を切つて遊んだ覚えもあるが、歳を経るに連れ、は虫類とか両生類といった類の生き物は、確かに苦手な生き物に変化している。

「ケツケツケツ」はヤモリの鳴き声である。

さすがに部屋の中で鳴き声がしても妻から「追い出して」とまでは言われなくなつたものの、しばらくは仏頂面が続いた。しかし、すっかり島に馴染んだ子の保育所通いを通じて、徐々に同世代の仲間も増え、行動範囲が広がるとともに、石垣ライフを満喫し始め、口撃も止んだ。

「アギジャビヨ」とは驚いたときなどに発する。例えて言えば「エエ、ホントかよ」という感じか。

こちらでは目にすることはないが、サトウキビ収穫作業中のハブ咬傷といった沖繩ならではの労働災害も多くあった。サトウキビ畑には野鼠がおり、それを食するためハブもそこに生息しているのである。石垣での生活はまさに「アギジャビヨ」の連続でもあった。

イラスト・森沢康代